

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	リーディング2	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース	開設期	後期
対象年次	1 年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。講師持込資料等随時使用。				
担当教員情報					
担当教員	早川		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
プロの現場では読譜が出来るだけでは仕事の半分も適わず、その他たくさんの「現場必須項目」がある事を理解する。この授業では、一般的な読譜に加えプロならではの譜面の書き方はもちろんのこと、現場では当たり前の壁コンセントの極性といった簡単なことから、電源ケーブル、エフェクター、ミキサー、各楽器の特徴及び簡単な扱い方、アマチュアの方が「やっぱりプロはすごい！」と憧れるような良い音の作り方までの習得を目的とする。					
到達目標					
いくら個人練習を積んで各パートのプレイテクニックが高くなろうとも、「プロ」の現場ではそれ以外に知っていなければならないこと、出来ていなければならないことが山ほどある。ただ弾けるだけでは不十分なので、後期では次のような事を習得する。1、現場レベルの読譜が出来る。2、より良い音を得る為の電気知識を習得する事ができる。3、譜面や演奏に紐付いた音響の基礎知識を習得する事ができる。					
教育方法等					
授業概要	譜面が読めて普通にプレイ出来る…に留まらず、昨今のライブ、コンサート等で不可欠な「電気」についての基礎知識…家庭用コンセント1口には約100V/15Aという電気が出ていて…という初歩的なことから、これはあくまで「約100V」であって、周りの電気使用状況によってそれは変化し、場合によってはノイズというものを生み出す汚れを生じる…等を知り、お客さんがより満足して帰っていただけるように、一つでも邪魔な要素は排除し良い要素に変えていく感性を専門的に深く身につけていく。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端技術等について概説するので、自分でも情報を収集し、知識の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	前期の復習		前期内容を復習し見落としがないかチェックし、前期の内容が完全にわかる。		
2 回	拍子と強弱		小節内の強拍と弱拍がわかる。マイクの種類、使い方がわかる。（1）		
3 回	アウフタクト		弱起がわかる。マイクの種類、使い方がわかる。（2）		
4 回	シンコペーション		強弱の拍の移動がわかる。ケーブルの種類、使い方がわかる。		
5 回	変化記号（1）		変化記号の種類と使い方がわかる。電源ケーブルの音の違いがわかる。		
6 回	変化記号（2）		変化記号の有効範囲や異名同音がわかる。電源事情の改善による音の違いが聞き分けられる。		
7 回	音階（1）		長音階がわかる。EQの種類と使い方がわかる。（1）		
8 回	音階（2）		短音階がわかる。EQの種類と使い方がわかる。（2）		
9 回	調号と調性		調号と調性がわかる。コンプ/リミッタの種類と使い方がわかる。（1）		
1 0 回	調（キー）		12のキーがわかる。コンプ/リミッタの種類と使い方がわかる。（2）		
1 1 回	音程		音程の基礎がわかる。ミキサー、PA、モニターの概要がわかる。		
1 2 回	コードネーム		コードネームの読み方、書き方がわかる。インラインミキサーの仕組みがわかる。（1）		
1 3 回	コードタイプ		様々なコードの種類がわかる。インラインミキサーの仕組みがわかる。（2）		
1 4 回	楽譜演奏の順序		譜面に書かれた演奏の順序がわかる。その他一般的なプロユースのスタジオ機材がわかる。		
1 5 回	まとめ		全体のまとめ		